

CASBEE-広島 (2010年ver.1)
S&Cプロジェクト(A工区) 開発センター

用途等で評価が不要となる項目については、自動的に網掛けが入ります
 欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE広島 2009年版
 ■ベース評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								2.7
Q1 室内環境			0.40					2.9
1 音環境		3.0	0.15					3.0
1.1 騒音		3.0	0.40					
1 暗騒音レベル		3.0	1.00					
1.2 遮音		3.0	0.40					
1 開口部遮音性能		3.0	0.60					
2 界壁遮音性能		3.0	0.40					
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音		3.0	0.20					
2 温熱環境		2.8	0.35					2.8
2.1 室温制御		3.0	0.50					
1 室温設定		3.0	0.39					
3 外皮性能		3.0	0.24					
4 ゾーン別制御性		3.0	0.37					
2.2 湿度制御		2.0	0.20					
2.3 空調方式		3.0	0.30					
3 光・視環境		2.5	0.25					2.5
3.1 屋光利用		1.9	0.41					
1 屋光率		1.0	0.51					
2 方位別開口								
3 屋光利用設備		3.0	0.49					
3.2 グレア対策		3.0	0.25					
2 屋光制御		3.0	1.00					
3.3 照度		3.0	0.13					
1 照度		3.0	1.00					
3.4 照明制御		3.0	0.21					
4 空気質環境		3.5	0.25					3.5
4.1 発生源対策		4.0	0.50					
1 化学汚染物質	内装材はF☆☆☆☆を使用	4.0	1.00					
4.2 換気		3.0	0.30					
1 換気量		3.0	0.36					
2 自然換気性能		3.0	0.29					
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.36					
4.3 運用管理		3.0	0.20					
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50					
2 喫煙の制御		3.0	0.50					
Q2 サービス性能		-	0.30					2.8
1 機能性		2.4	0.40					2.4
1.1 機能性・使いやすさ		1.2	0.43					
1 広さ・収納性		1.0	0.28					
2 高度情報通信設備対応		2.0	0.28					
3 バリアフリー計画		1.0	0.44					
1.2 心理性・快適性		3.6	0.32					
1 広さ感・景観	天井高さ2700確保	4.0	0.36					
2 リフレッシュスペース	事務室内にリフレッシュスペースを設置	4.0	0.28					
3 内装計画		3.0	0.36					
1.3 維持管理		3.0	0.25					
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50					
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50					
2 耐用性・信頼性		2.9	0.31					2.9
2.1 耐震・免震		3.0	0.48					
1 耐震性		3.0	0.80					
2 免震・制振性能		3.0	0.20					
2.2 部品・部材の耐用年数		2.7	0.33					
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23					
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.23					
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08					
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.15					
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23					

2.4 信頼性			3.2	0.19			
1	空調・換気設備		3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20			
3	電気設備		3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20			
5	通信・情報設備	通信手段の多様化を図り、通信機器の浸水の可能性がない。	4.0	0.20			
3 対応性・更新性			3.3	0.29			3.3
3.1 空間のゆとり			4.6	0.31			
1	階高のゆとり	階高4000確保	5.0	0.60			
2	空間の形状・自由さ	コア以外は乾式間仕切りにて区画	4.0	0.40			
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31			
3.3 設備の更新性			2.5	0.38			
1	空調配管の更新性		1.0	0.17			
2	給排水管の更新性		2.0	0.17			
3	電気配線の更新性		3.0	0.11			
4	通信配線の更新性		3.0	0.11			
5	設備機器の更新性		3.0	0.22			
6	バックアップスペース		3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30			2.2
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30			1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30			2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50			
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-			3.4
LR1 エネルギー			-	0.40			3.6
1 建物の熱負荷抑制		省エネルギー計画書による	3.3	0.30			3.3
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20			3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50			
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50			
3 設備システムの高効率化		省エネルギー計画書による ERR=26	5.0	0.30			5.0
4 効率的運用			3.0	0.20			3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50			
4.2	運用管理体制		3.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル			-	0.30			3.2
1 水資源保護			3.4	0.15			3.4
1.1	節水	節水便器、節水器具を採用	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水再利用			3.0	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67			
2	雑排水再利システム導入の有無		3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減			3.1	0.63			3.1
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07			
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24			
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20			
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	ビニル床材	3.0	0.20			
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.05			
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	鉄骨造乾式壁形式であり内装仕上げは軽鉄下地+仕上げ材	4.0	0.24			
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.2	0.22			3.2
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避			3.3	0.68			
1	消火剤	消火剤にフロン、ハロンを使用していない	4.0	0.33			
2	断熱材		3.0	0.33			
3	冷媒		3.0	0.33			
LR3 敷地外環境			-	0.30			3.4
1 地球温暖化への配慮		省エネ配慮により、運用時のCO2排出量を削減している	4.8	0.33			4.8
2 地域環境への配慮			2.4	0.33			2.4
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.6	0.25			
1	雨水排水負荷低減		-	-			
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33			
3	交通負荷抑制	駐車場、駐輪場を確保	4.0	0.33			
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.33			
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33			3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40			
1	騒音		3.0	0.33			
2	振動		3.0	0.33			
3	悪臭		3.0	0.33			
3.2 風害、日照障害の抑制			3.0	0.40			
1	風害の抑制		3.0	0.70			
2	日照障害の抑制		3.0	0.30			
3.3 光害の抑制			3.0	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70			
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30			